

名経大通信 第16号

2006年1月1日

名古屋経済大学

<http://www.nagoya-ku.ac.jp/>

P1 学園100周年を迎えて 末岡学長のメッセージ

P2 めでたい…ふるさとの伝説

P6 骨密度検査に住民177人

P3 「これからの日中」シンポ、盛況

P8 人生をデザインする
野呂博邦さん

P4 経済産業大臣から小木教授受賞

CAMPUS FESTIVAL

10.22(土)~23(日) 名経祭から



山口晃司さん(高蔵高校)の三味線演奏



ゴミの分別、立派でした



愛・地球博見学の成果



「界法会」模擬裁判



たくさんの子供連れ

名経大通信 名古屋経済大学 名古屋経済大学短期大学部 第16号 平成18年1月1日発行 〒484-8504 愛知県犬山市内久保1-1 TEL.0568(67)0511(代)

平成18年度(2006年度)入試日程

大学/経済学部・経営学部・法学部・人間生活科学部(幼児保育学科・管理栄養学科) 短期大学部/保育科・キャリアデザイン学科

試験区分		実施学部・学科	受付期間	面接日または試験日	合格発表日
学 力 〈前期〉	A日程	全	平成18年 1/11(水)~1/26(木)	試 自 験 由 選 日 日 択	2/1(水)・2/2(木)
	B日程				2/7(火)・2/8(水)
学 力〈後期〉		全	2/20(月)~3/3(金)	3/7(火)	3/9(木)
センター利用試験〈前期〉		全	1/11(水)~2/3(金)	本学独自の個別試験は 実施しません。	2/12(日)
センター利用試験〈後期〉		全	2/20(月)~3/6(月)		3/11(土)
社 会 人		全	2/20(月)~3/2(木)	3/7(火)	3/9(木)

※学力試験(前期)の学外試験場について

【全日程】栄 【2/2】半田・岡崎・豊橋・四日市・松阪・浜松・静岡・飯田 【2/7・2/8】那覇

※選考方法については、「2006年度入学試験要項」にてご確認ください。

次を、次へ。

100th
anniversary

市邨学園 創立100周年

名経祭の日

めでたいような

こわいような

と、教育・研究活動の成果を礎に社会に果たすべき役割を探索してきましたが、今後、さらに大学院における会計学研究科博士課程、人間生活科学部大学院の設置を目指し、本学の充実発展を期したいと考えております。

以上、学長として最善の努力を致して参ります。皆様のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。

八百年も若い娘の姿のままを保ったという、めでたい話である。彼女は犬山市にいた。

明治三十三年（一九〇〇）年生まれの奥村信市翁（犬山市今井）は次のように伝えていた。

ある庚申月の祭の夜に、六人の男が海を越えて「おがせの国」に渡った。もてなしを受けるが、大きな人間みたいなのを一生懸命料理しておった。皆はあれこれ理屈をつけて逃げようとする。すると、料理した方はせめて土産にと肉を竹皮に包んで渡してくれた。

家に帰ると六人の娘の中の一人がその肉を見つけて食べてしまった。それ以来、娘は年を取らず、橋爪の万願寺で尼になって八百歳まで生きるので八百比丘尼と呼ばれた。

八百比丘尼は五郎丸という帆掛船に

ふるさとの伝説



八百比丘尼が入定した跡と伝えられる犬山市五郎丸字万願寺の「お化け椿」

乗って、幅下という港を使い、おがせの国や、あつちこつちに行つたという。以上は東京女子大学民俗調査団一九九二年度調査報告『今井の民俗』を要

約した。

八百年を生きる比丘尼の登場する話は、格別に珍しいものではない。それでも、犬山の伝説を若い学生が記録し

八百比丘尼の話

市邨学園創立100周年記念事業の概要

■市邨学園創立百年史刊行

■100周年記念行事

- 100周年記念祝賀会
11月17日（金）
名古屋マリオットアソシアホテル
- 100周年記念演奏会
チェコブラハ管弦楽団
11月15日（水）
愛知県芸術文化センター
- 100周年記念講演会
（日程等調整中）
- 100周年記念同窓会
11月12日（日）
ウェスティンナゴヤキャッスル

■各校整備事業

- 名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 校地移転統合事業
- 名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部 整備工事
- 名古屋経済大学市邨高等学校・中学校 整備工事

■100周年記念事業募金

高木史人

てくれたのは悦ばしい。「おがせの国」（岐阜県各務原市荻ヶ瀬である）や橋爪、五郎丸、幅下などという地名が見える。ちなみに、これらは、尾張二の宮の本宮山大縣神社近辺に伝わる「山姥物語」に出てくる地名とも重なり合う。また、長命のめでたさの内実を、人の肉（—に近い物）を食した原罪として身罷ることを許されなくなったと捉えて、八百比丘尼を日本のプロメテウスだともなずらえられよう。

東北地方には、これと似た話が「庚申のむがし」という昔話として、庚申講のお日待ちなどに語られていた。

先の学生の聞き書きによると、奥村翁は「今井では庚申月に決まって話されたものである」という。

伝説や昔話や世間話が「いつ、どこで、誰が、誰に、どのように」伝えられていたかということは、記述されな

い場合が多く、これは貴重な証言だ。庚申、すなわち十干十二支という「かのゑさる」の日には夜通し昔話や伝説や世間話を語り伝える慣わしがあった。従来、犬山市では口承される様子を伝える資料が乏しかった。先の調査報告に示されている資料群は、かつて—近代以前—の犬山での口承のありようを窺わせる貴重なものである。繰り返すが、学生が記録していたことは、何にも増して悦ばしい。

このような「学問」を通しての地域への貢献は、本学の学生にもできることがあるはずだ。経済学、経営学、法学、保育学、栄養学などそれぞれの専門分野で、学生が自主的に地域に高度の「学問」としての実践を行う。それが常態である大学となることを、私もは願わずにいられない。

（経営学部助教授）

「これからの日中関係」シンポジウム

名古屋経済大学シンポジウム「これからの日中関係」（朝日新聞社後援）が十二日、名古屋市中区のKKRホテル名古屋で開催されました。中嶋嶺雄・国際教養大学長と王智新・宮崎公立大学教授を迎え、お二人の講演とそれをもとに討論が行われました。

小泉首相の靖国参拝などの悪影響が懸念される今後の中国と日本の関



係には人々の関心が深く、定員をはるかに上回る二百四十人の参加があり、熱心に聴き入り、討論に加わりました。シンポジウムを設営し、司会をした巢山靖司法学部教授（人文科学研究会長）のメッセージです。



最近の日中関係は、小泉首相の靖国神社参拝・中国での反日的雰囲気拡大・東シナ海での石油ガス採掘問題・沖縄での米軍の再編成等々と多くの深刻な問題を抱え、憂慮すべき状況にあります。アジアにおいて中心となるべき二国の関係が不安定になるならば、それは国際社会全体

に多くの好ましからざる影響をもたらすに厳しい負の要因を生み出しかねません。

また、名古屋経済大学という限られた世界を考えましても中国からの優秀な留学生も年々増加しつつあり、実質的な友好関係が進展しつつあるにもかかわらず、これに対し悪影響が出かねません。こうした事態は絶対回避せねばなりません。

常に日本における中国研究をリードしてきた中嶋氏。また教育問題を軸に日中問題について貴重な発言をしている王氏。期待通りの真摯で活発な討論でした。

（巢山 靖司）

一人一人が カラー発色

短期大学部保育科
関谷みのぶゼミナール

保育科では、一年次後期「総合演習Ⅱ」と二年次「特殊演習」の一年半をかけてゼミナール活動が行われている。

一年次の間は「いちむらつこまつり」に関わるグループ活動がほとんどである。企画、準備、発表、反省という流れのなかでゼミ生が自主的に活動し、ゼミ生同士が協力し合い

親睦を深めることができる良い機会となっている。

二年次になると、私のゼミでは足並み揃えての活動というよりは学生の関心に合わせた、個別または数人の活動が中心となる。

『人々』がより幸せに暮らすためには？』という大きな福祉の課題の下で学生自身が『』の中に入る対象者を具体的に選び、その対象者がどうすれば、よりよく暮らせるだろうかということを考えさせる。成果はレポート、制作と様々な形態で表現され、学生の個性が反映されるものとなる。

こうしたゼミとしての基本的な活動内容は毎年変わらないのだが、集まってくる学生のカラーは面白いくらいに、年毎に違う。

そのため、私も『ゼミ生』がよりよく暮らしていくためには…と日々考えなければならぬ。十人十色というように、ゼミ生一人ひとりの関心、価値観等はバラバラであるが、まずは一人ひとりが鮮やかに自分のカラーを発色してくれればいいと思う。

そして、一年半のこうした活動を通して、他人を思いやる心をもち、周りの人だけでなく自分自身も含めてよりよく暮らせる社会への一歩が



踏み出せる温かい人間に育ってほしいと願っている。

小木教授、経済産業大臣表彰

◎消費生活アドバイザー制度に貢献

「消費生活アドバイザー制度」が誕生して二〇〇五年で二十五周年を迎えた記念式典が昨年十月東京で行われ、本学消費者問題研究所所長でもある経済学部・小木紀之教授が、この制度への貢献で経済産業大臣賞をトヨタ自動車、東京電力と並び個人で受賞しました。永年、同アドバイザー認定試験の総括責任者を務めている小木教授に一文を寄せてもらいました。

◇消費生活アドバイザー制度

を生み出す背景となった一九八〇年代初頭は世界的にコンシューマリズム（消費者主義）の台頭があった。企業の消費者対応の不備、社会的責任の追求など、まさに新しい企業経営理念の確立が迫られた「消費者の時代」でもあった。

消費生活アドバイザーは消費者と企業のパイプ役として、企業・団体などにおいて消費者からの相談や苦情に応じ、消費者がどのような意見



を持つているかを的確に把握し、それらの消費者情報を企業トップやお客様担当部門にフィードバックして、経営方針、商品・サービスの改良・開発に反映させている。

また、消費者志向に反する危険情報を見極めて迅速な対応を助言するなど幅広く活躍している。消費生活アドバイザーは経済産業大臣の事業認定を受けた（財）日本産業協会が称号を付与し、産業界の消費者志向

体制の整備に役立てようとしている。制度発足以来、二〇〇四年現在で、すでに一万人を超えたが、例年その合格率は一七%台とかなり難しい。本学経済学部消費政策コースでも消費生活アドバイザー合格を目指す

今年度の教育懇談会を終えて

本学で三回、五県でも開催

平成十七年度の「教育懇談会」は本学会場で三回のほか、沖縄、石川、福井、長野、静岡の各県で行われました。

全学部・学科からゼミナールの担当教員が出席し、ゼミ所属学生の保護者の方々と面談。単位取得状況をもとに、今後の授業への取り組み方や、日常生活の過ごし方について話し合いをしました。

アンケートに対する多くのご感想は、「大学での具体的な生活が分かって安心した」「家庭と大学間がとても身近に感じられるようになった」「今後の家庭での接し方の参考になった」などでした。

また、本学会場では情報センター、就職資料室、図書館などを自由に見

ための資格取得支援プログラムの充実を期すことを念頭に取り組み中であるが、こうした分野で活躍する卒業生を多く輩出したいものである。

（小木紀之）

学され、キヤンパスの雰囲気を感じ取っていたのだと思います。

平成十八年度は懇談会の一層の充実を図り、開催時期などを考慮し、より多くのご参加を期待してまいります。

（学生部）



「YES—就職基礎能力評価試験」に154名



昨年十一月十二日に本学、十三日に名古屋駅前会場で、厚生労働省認定の若年者就職基礎能力支援事業である「YES—就職基礎能力評価試験」が実施されました。大学一年、三年、短大一年を対象に無料（通常五千元）で受験者を募集したところ、両日で百五十四名がトライしました。

試験内容は ①読み書き ②計算・計数・数学的思考力 ③社会人常識 ④職業人意識 ⑤コミュニケーション能力 ⑥ビジネスマナー能力の筆記六領域と実際の面談場面を想定した実技試験です。午前中は三

時間の筆記試験を大教室で行い、午後は演習室で二人の面接者に対して受験者一人一人が臨みました。

企業が求めている就職能力の判定試験だけに受験生は真剣に取り組んでいました。結果はゼミ別に本人に伝えられ、自らの強い分野と弱い分野を知ることができ

（就職部）

2月17日

学内合同企業展

学生の業界研究と就職意識の高揚を目的にした「学内合同企業展」を二月十七日（金）、本学のプラザIIで開催します。

参加企業は約七十社が予定され、対象となる学生は経済学部、経営学部、法学部の三年次生、短期大学部一年次生（保育科を除く）。

〈ガンパロー〉

10月14日の就職活動出陣式で学生と教職員が三唱した



インターンシップ報告会 新たに法学部生が参加

経済学部助教 木全敬止

インターンシップとは、「学生が在学中に、教育の一環として、企業・行政等の指導のもと、一定の期間（二週間）行う職業体験およびその機会を与える制度」のことです。

今年度から新たに法学部の学生が

インターンシップ実習に参加しました。参加数は、三年次生八名（経済学部四名、経営学部一名、法学部三名）でした。

実習先は、犬山市役所五名、公認会計士光岡朗事務所一名、小栗・石畔法律事務所一名、大崎司法事務所一名です。

実習報告会は昨年十月に行い、学生八名がパワーポイントを使って報告。来年度インターンシップ実習に参加予定の二年次生も聞き入りました。

その感想としては、学生が様々な仕事を体験する中で多くのことを学ぶことができたということ、ただし、実習先についての事前調査と実習に必要な基礎知識が不足しているということがあります。その結果を踏まえ、より充実させたいと思います。



「わいわい犬山」でヘルスチェック 骨密度の検査に177名

管理栄養学科教授 坂井田 宏



「わいわい犬山フェスティバル・産業振興祭」が十月八〜九日、開催されました。本学も主催者の一員として、管理栄養学科のスタッフ一同と数名の学生ボランティアが参加し、犬山市南部公民館にヘルスチェックコーナーを開設しました。

血圧、体脂肪率、骨密度などの測定と健康相談を行いました。特に骨密度に関心が集まり、総勢百七十七名の住民が検査を受け、大変盛況を博しました。

健康相談では、新設された管理栄養学科の宣伝と「名経祭」における伊藤誠教授（病態学）の講演会の宣伝をし、皆さんが快く耳を傾けてくれました。

ボランティアの学生も活躍し、良かったと楽しんでくれたようです。

ほのぼの 小牧の里山で竹の造形展

経営学部教授 柴田良一

稲刈りの済んだ田んぼに竹を素材とした造形物が突如出現する「バンブー・インスタレーション」。今年で十二回を迎えました。

会場は小牧市の東部に広がる大草地区です。ここに八田川が流れ、まわりの田畑を潤してきました。八田川を中心とした里山は、桃花台ニュータウンの開発で一変し、都市化の波がすぐ目の前に迫ってきています。このような時代において、川のせせらぎがある里山は大変貴重なものとなりました。この風景のなかで竹の造形展「バンブー・インスタレーション」が毎年開催されます。

今年のテーマは、「新たな里山」です。主催する私たち中年の者にとって、小川のせせらぎや季節によって変わる田畑、そしてこれらを囲む



雑木林の風景は日常のものでした。このような佇まいを残す里山をもう一度再発見してもらいたいとの願いを込めたテーマです。

幸いにして、田んぼの持ち主と耕作者の方々、さらに地区の自治会の協力を得て開催することができています。何よりも多大なエネルギーを注ぎ、作品を出展してくださる皆さんに感謝です。

参加者は幼稚園児、地元の親睦団体、PTA、大学生、造形作家と多種多様です。そして、昨年から名経大を始めとする周辺三大学の後援を受け、名古屋造形大の学長ほか五人の審査員による審査を行うようになりました。今年の最優秀賞（八田川賞）は地元の幼稚園チームでした。

ほのぼのとした作品を今年も大草で見ることができました。来年も十一月三日の文化の日を中心に開催します。

詳しくは、
<http://www.gld.mntr.or.jp/~shyura/>
をご覧ください。

企業法制研の公開講演会

十五回目の企業法制研究所公開講演会が十月二十一日に名古屋市内で行われました。今回は、学外から金沢大学大学院法務研究科の中島史雄教授（写真）をお迎えし、また、本

学からは法学部の高橋利治教授に講師をお願いしました。

わが国の商法は過去より頻繁に改正がなされてきました。

近年では平成十三・十四年には大改正がなされ、十五年にはさらなる改正の動きがあり、十七年六月末には「新会社法」が成立し、法典の口語体化をはじめ各種制度の抜本的見直しが行われました。そこで、中島教授は「新会社法制定の意義と課題」と題し、「新会社法」の改正の主たる内容や改正に至った背景、今後の課題点等をはじめ多岐にわたって詳細な解説をしました。

また、高橋教授は、近年国際的課題の一つとしてあげられている「インサイダー取引規制の強化策」につき、イギリス会社法を基本的に継受するオーストラリア会社法に焦点を絞り、「オーストラリア会社法におけるインサイダー取引規制」と題し、とりわけ一九九一年の改正で設けられたインサイダー取引違反者に対する厳格な諸規定の紹介を中心に、その後の改正の動向、同会社法におけるインサイダー取引規制の現状や今後の課題等を解説しました。



内モンゴルの 2 学院と協力態勢

副学長 鈴木正

昨年十月二十三日より内モンゴルのフフホトにある内蒙古智力引進外語專修学院と外国語培訓学院を訪ねた。

「智力引進」は二〇〇二年秋と昨年六月に、張宝文院長が本学を訪問され、日本語コースの学生（日本語検定二級以上）が入学を希望しているので現地入試をしてほしいと要望されていた。また、「培訓」は李永学院院长が本学を昨年訪問され同様の申し入れを受けたので、答礼訪問を兼ねて成績優秀な学生の一年次入学を念頭に話し合ってきた。

幸い、両学院も協力的で直接テストして合否を決めてほしいとのことであった。十一月二日の大学評議会において、この基本方向で今夏から始めることとなった。

内モンゴルの省都フフホトは北京オリンピックをひかえ、好況で活気に満ちていた。平均気温は0度から十度位と聞いていたが、例年にない暖かさで快適な訪問であった。

いま、在日の日本語学校から入学した内モンゴル出身の優秀な学生が本学に在学中だが、引き続き新たな

留学生が優れた留学生集団の一翼を担ってくれることを期待している。



〈力演〉10月の名経祭で名古屋の写真家が撮影。中日新聞に掲載された

シンガポールだより

経営学部助教授 中西昌武

私は今、在外研究でシンガポール国立大学コンピュータ科学部におります。シンガポールは今年独立四十周年を迎えた若い国です。

英国を宗主国とするマレーシア連邦の一州であったことと、中国および南インドからの移民

が多かったことから、多民族（中国系・マレー系・南インド系）・多言語（英語・中国語諸方言・マレー語・タミル語）・多宗教（仏教・道教・イスラム教・ヒンズー教・キリスト教）が共存しています。淡路島とほぼ同じ面積の中に四百万人以上の人が住み、

他国との交易で経済成長を遂げてきたこの国は、民族・宗教の平和的共存に常に気を遣っています。

シンガポールが人材サービス輸出でインドをライバルと見ている、と現地紙が述べていました。両国はともに英語を武器としていますが、他の民族語もあやつれる点で当国に利がある、と結論づけています。確かに、高学歴でない人でも英語と自民族語が自由に使えることを武器に「昨日は大阪まで行った。明日は仙台」といった感覚で、中国や東南アジア諸国のビジネスに出かけます。

若者は大学生に限らず向上心が旺盛で非常によく勉強します。その一方で国内の福祉問題や海外の紛争・難民・飢餓・災害への関心が高く、いま自分が何をできるかをよく考え、積極的に行動します。政府による統制面がとかく指摘されがちなの国ですが、個人個人の自立した行動意欲のほうに私は着目しています。この国は成長し続けるでしょう。

from Singapore

社会人から学生へ

短期大学部キャリアデザイン学科1年 H. N

私は、以前、社会人として生産工場に勤務しておりました。しかし、自分の能力を人と関わる職業で発揮したいと思うようになり転職を考えようになりました。その際、友人の転職の例などから、今、私に必要なものは新しい仕事ではなく、教育を受けることであることに気づき、三十三歳になって本学短期大学部キャリアデザイン学科に入学しました。

では、なぜ、この学科を選んだのかと申しますと、それは、多様化する社会の中での、自分の生き方を自らデザインすることに魅力を感じたからです。講義の中から、私は、自分を知らぬことの大切さやその方法を学びました。それらは、今後の人生をデザインする上で、とても有益な



名経祭会場の Nさん

ものとなりました。また、各種資格取得を目的とした講義が多いことにも魅力を感じました。私は、入学してからの半年間で、ワープロ検定三級と販売士検定試験二級の資格を取得することができました。これらの資格が取得できたのは、担当の先生方の熱心な指導のおかげであり、たいへん感謝しております。資格を取得することで、私は、自分に自信を持つことができ、より大きな課題を自分に課すことができるようになりました。

学生と社会人を比べると、学生の方がより多くの自由な時間を持つことができます。私は、その自由で使える時間を使い、自分の興味のある分野から自己を知るようにしています。具体的には、私は、英語に興味があり、生の英語に触れてみたいと思う気持ちから、夏季休暇を利用してアメリカでの短期留学を体験しました。外国から自国を見つめる中で、多くのことを学ぶことができ、とても実りの多い留学を体験できました。今後は、TOEICテストなども積極的に

極的に受験し、自らが描いたキャリアデザインに沿った資格を取得して参りたいと思います。そして、本学科を卒業後は、四年制大学へ編入学し、私の興味のある経営学や語学などをさらに学んでいこうと考えています。私にとって、学ぶことは、種を得ることです。しかし、どんなに素晴らしい種を得ても、それを蒔かなければ行動しなければ、何も生えてきません。社会人となった後に、すばらしい種が蒔けるように、今後も修学に励んで参りたいと思います。

大学院、大学

合同で同窓会開く

二百四十名が参加して

名古屋経済大学の大学院同窓会、大学同窓会は昨年十一月二十六日、名古屋マリOTTアソシアホテルで、それぞれ総会を開き、そのあと合同懇談会に移りました。大学院八十名、大学百二十名、教職員四十名の総勢二百四十人が参加しました。大学院同窓会の朝倉充俊会長、大学同窓会の山田拓郎会長があいさつし、末岡学長が祝辞を述べました。市邨学園大学時代の一回生から二十三期生までの大学同窓生は親しかった先生、ゼミでお世話になった先生

らを囲み、また気の合う仲間の輪もでき、時のたつのも忘れるほどでした。 ◆ 同窓会事務局V 大学院としては初めての同窓会で、昨年度までの修了生およそ三百六十名のうち、八十名と予想を超える参加があり、再会を懐かしみ、近況を伝え合いました。中には修了生同士で結婚されている方々もおられて、そんなところにも時の流れを感じました。すでに税理士として独立開業されている方も

多く、情報交換の場としても盛り上がりつつあります。例えば、大学院創設から五年余りが経過し、皆さんがそれぞれの道を歩んでおられるのだなと感慨深いものがありました。この同窓会でさらに絆が深まったのではないかと思います。 ▲平成十三年度修了生 佐藤豊和V





14年度法学部卒業
神山裕右さん

法学部OB（平成十四年度卒）

で昨年度江戸川乱歩賞受賞者の神山裕右さんⅡ名古屋在住Ⅱが受賞に次ぐ二作目の「サスツルギの亡霊」を講談社から昨年十一月出版しました。南極大陸を舞台にして越冬隊員が次々に怪事件に巻き込まれるというサスペンスです。たまたま日本の南極観測が始まって半世紀になります。年末年始も執筆に明け暮れる神山さんに新作などの思いを語ってもらいました。

1年前の受賞の時と比べ手ごたえはいかがです。

「ずっと自分のペースで書いていたが、今回は内容について出版社と打ち合わせを重ねました。いろいろ勉強になりました。受賞作はかなり大きく報道されましたが、今回はどのよう

に話題になるでしょうか？」
受賞のとき、「実は次の乱歩賞に応募するつもりで書いている作品がある」と言っていましたね。

「そうです。ずっと資料を集め準備していました。それを完成させたのが二作目ですが、受賞作とどっち

が好きか問われると、難しいところ

です。
いつから、どういうことから南極に興味を持ったのですか。

「南極は子供心に興味を持っていた中の一つです。僕は自分では行けない所にひかれます。

1年たって自分が変わったと思うところは。

「そういう実感はありません。アルバイトの回数は減らしながらもまだ続けています。店が忙しいときに出て行くとか。

ますます小説書きが面白くなってきたのではないですか。

「そこまではまだ達していません。これから場数を踏んで一作一作書いていって、この世界が見えてくるのではないかと思っています。最低限プロとしてやっていこうという意識にはなっています。

今、取り組んでいるのは。

「書きたいものはいろいろあります。幾つかの出版社からお話を受けています。



あるく たべる

地ビールレストランという、規制緩和とバブル経済の流れの中で各地に誕生した。出かけたときには、ご当地の地ビールを試してみるが、なかなか自分の嗜好にあったビールに辿りつかない。これまでに「美味しい！」と思ったのは、富士山の麓にあるレストランと今紹介する「犬山ローレイ麦酒館」の地ビールである。

黒川紀章デザインの洒落た建物を入ると高さ7mの吹き抜けホールになっている。曜日によりピアノ演奏があるのもうなずける。ガラス張りの壁面の奥には竹林が広がり、和洋の絶妙なバランスがオーナーのセンスを感じさせる。

学生さんとも出かけるお昼は、バイキングになっているので、アルコールを飲むことが出来ない時でも充分楽しむことができる。団体の場合、無料送迎バスもあるので安心である。

さて、地ビールであるが、ここは、江戸時代から続く「小呂鶴」というお酒の蔵元の経営である。酵母を扱うことには元々手馴れているということだろうか。そして本場ドイツの女性ブラウマイスターの指導を受け、



水は木曾川の伏流水を使用しているという。美味さの秘密は、このあたりにあ



りそうである。もっともポピュラーなビールスナーが薦めだが、他に香り高いパイツェン、低アルコールのミュンヘンそして季節毎のスペシャルビールがあるのも嬉しい。また、蔵元ならではのお酒も楽しめる。お薦めは「おり酒」である。とても口当たりがよいのでワイン通にも評判が良い。ただし、アルコール度数が高いので、飲みすぎに要注意である。

料理のお薦めは、ローレイ風スペアリブ、ソーセージの盛り合わせ、汲み上げ豆腐等である。特にスペアリブは、10数本の肋骨が繋がった豪快な料理である。

地ビールレストランもバブル経済の崩壊と飲酒運転に対する規制の強化から、苦戦を強いられているところが少なくない。そんな中で元気なのは、酒造りで培った妥協のない頑な姿勢だろうか。見習いたいものである。（法学部 近藤久雄）

「犬山ローレイ麦酒館」

犬山市大字羽黒字成海郷70

電話0568-6716767

URL <http://www.loreleybeer.co.jp/>

☆キャンパスの周辺で、こういう味どころ、見どころを紹介してください。先生、学生からの寄稿を歓迎します。



現代人文社

「カンボジア大虐殺は

「戦けるか」

—クメール・ルージュ国際法廷への道—

ステイブ・ヘダー、
ブライアン・ティトモア 著
四本健一 法学部助教授 訳

「40歳からの聞くに

聞けない経営の話

(経営学再入門)

萩原 俊彦 経営学部助教授 著

東洋経済新報社

経営学を学ぶのに必要な基本知識を、先生と卒業生が卒業後に改めて授業をするような会話形式にまとめて、今回、東洋経済新報社から出版したのが、この「40歳からの聞くに聞けない経営の話(経営学再入門)」です。

現在、私が教えている学生はもちろんです、何年か前に責任を持って卒

業させた学生でも経営学の基本を忘れていた場合が散見されます。そうかと言つて、もういまさら聞くに聞けないということもあるのではなからうかと推察しています。その辺がこの本の題名の由来です。

経営学関係では、最近アメリカの経営学修士(MBA)の教科書の翻訳的な書物が流行で比較的多く出版されていますが、経営の基礎について一貫性を持たせて、やさしく、しかも簡潔かつ丁寧に説明した書物は、日本でもアメリカでも数少ないのです。この本はそういった点に配慮して、小説を読むような感覚でストーリーの中に入り込

んで、知らず知らずのうちに経営の基礎を理解していただくような仕組みになっています。複雑な話はできる限り簡略化してあります。

ストーリーは、突然の出来事で社長に就任することになった主人公が、学生時代の恩師に学びなおすというような形式で進んでいきます。初歩的なお茶の問的な誰にでもわかる経営の話題を中心に据え、できるだけわかり易い図解によって、経営学の基本的な考え方を展開していきますので、もう一度勉強し直してみたいという方、それからこの本の設定のようにこれから経営者あるいは経営管理者になりたいと考

「クメール・ルージュ」(赤いクメール人)と恐れられたカンボジア共産党が政権の座にあった一九七五年から一九七九年までの間、カンボジア国内では一〇〇万人に及ぶ人々が「革命の遂行に邪魔」として殺害された。その中にはカンボジア人と結婚して現地に住んでいた女性や戦争取材に赴いたまま消息を絶ったジャーナリストら一〇数人の日本人も含まれている。その後の長期にわたる内戦と和平交渉、国連による平和維持活動を経て、カンボジアに平和が回復し、クメール・ルージュが解体した今日、ようやく大虐殺の首謀者たちを「人道に

対する犯罪」で裁判にかけられる可能性が現実味を帯びてきた。カンボジア人裁判官とともに、国連が推薦した外国人裁判官も参加する「クメール・ルージュ特別法廷」は二〇〇六年中にも開廷する見通しである。

本書(原題はSeven Candidates for Prosecution: Accountability of the Crimes of the Khmer Rouge)は、当時の政権が残した公文書や被害者からの聞き取りをもとに、クメール・ルージュ最高幹部七人について自らが実行した犯罪はもとより、部下に命じて実行させた戦争犯罪の一つひとつを立証して近く開始される裁判に役立てよう、という

えている方にも、お勧めしたいと思えます。

もちろん初学者用のテキストとしても最適であると自負しておりますので、名古屋経済大学で経営学を勉強している学生諸君は是非一度、目を通していただきたいと思えます。



ステイブ・ヘダー・ロンドン大学教授らカンボジア研究者と人権団体によるプロジェクトとして取り組まれたものである。原著が発表されたときに訳者が一年間の在外研究のためにカンボジアに滞在していたため、この本の日本語版を出版できないか、という翻訳計画がもちあがった。

なお、本書の印税(定価の五%)は大虐殺の「法的責任追及プロジェクト」を主導してきたカンボジアのNGO「カンボジア史料センター」を通じて、内戦に引き裂かれたカンボジア人の国民和解の促進に向けた事業に役立てられることになっている。

新年を迎えて

学園一〇〇周年

新たな出発に向けて

学長 末岡 熙章



新年明けましておめでとございます。学生ならびに保護者の皆様、そして同窓生を始め、常日頃、本学をご支援くださっている多くの皆様には、ご家族お揃いで明るい新年をお迎えのことと心よりお祝い申し上げます。

◆ 昨今の政治・経済・社会など各方面のパラダイムの変換と合わせて、十八歳人口の激減期に突入し、大学の高等教育政策の転換）がかつてない程の激しい時代となりました。この改革は古い秩序を大胆に破壊して、代わってどんな秩序が生まれてくるのかが見えにくく、国公私学を問わず大学が今、適切な対応を迫られていることは周知のとおりであります。

◆ 昨年来、本学においてもこれらの問題に対する対応が真剣に語られております。今後、本学は教育・研究の質を高め、責任ある学校運営を目指し、改革の取り組みを実効あるも

のにするために、明確な方向性を示し大学の発展を期したいと考えております。

さて本年、本学の経営母体であります学校法人市邨学園は、創立一〇〇周年を迎えました。創立者市邨芳樹先生が一九〇七年、「我が国で初めての女子の商業教育を」との信念のもとに名古屋女子商業学校を創立し、ここに本年記念すべき年を迎えまして、われわれは、市邨精神を継承し、常に「一に人物、二に伎倆」の建学の精神のもとに個性を尊重した人物教育を実践し、現在では名古屋経済大学大学院（法学研究科博士後期課程・修士課程、会計学研究科修士課程）を頂点に大学（経済学部・法学部・経営学部・人間生活科学部）、短期大学部（保育学科・キャリアデザイン学科）、高等学校、中学校、幼稚園を設置する総合学園にまで発展しました。

◆ 申すまでもなく、私学は建学の精神に立脚したものであり、私立大学

の設置する学部・学科は、いうまでもなく大学の個性や伝統、すなわち建学の理念と合致し、建学の精神との関わりが重要であります。

◆ 「市邨先生はいったい何を考えて市邨学園を創られたのか」、したがって「建学の理念を二十一世紀にあてはめればこうなる」を念頭に置き、私は今、新たな百年へのスタートに当たり、あらためて「建学の精神」ということを強調し、「建学の精神に立ちかえろう」と申し上げたいと思います。

◆ 私立大学は、現在置かれている苦境を克服するために、それぞれの建学の精神に則り、教育の理念・目標を明確にし、個性ある発展を目指す必要があります。学内の改革はもちろん社会へのアピールが必要で、これから始まる「第三者評価制度」は、そのための指針を与えてくれるものと思います。

◆ 本学は、これまで建学の理念のも